

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

98

秋の企画展

漆のチカラ

— 漆文化の歴史と漆表現の現在 —

福島県立博物館



秋の企画展

漆のチカラ―漆文化の歴史と漆表現の現在―

二〇二〇年一〇月九日(土)～一二月二八日(日)



朱漆塗糸玉 荒屋敷遺跡出土 三島町教育委員会



椿彫木彩漆笈 重要文化財 福島県立博物館



松竹梅漆絵椀 福島県立博物館

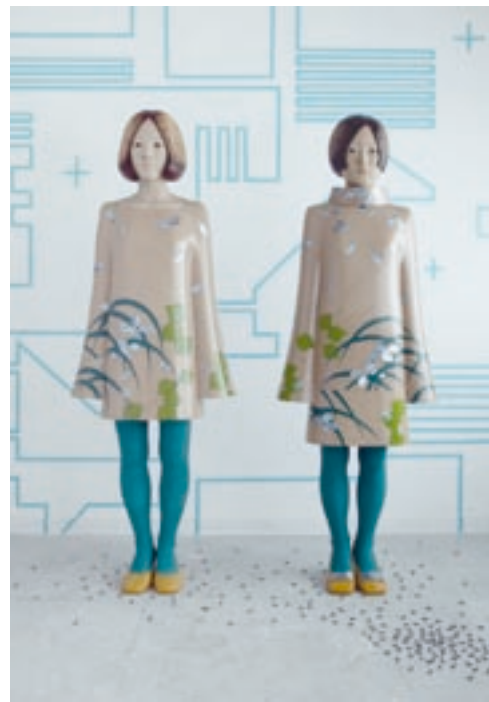
会津地方での漆の利用は縄文時代に始まり、各時代を通じてさまざまな形で用いられてきました。江戸時代から始まる産業としての漆器生産は現在の会津の漆器産業へとつながり、漆器は会津の代表的伝統工芸品として広く認識されています。本展では、縄文時代から現代に至るまで連続と続く会津と漆の関係を振り返りながら、漆文化の奥深さを紹介するとともに、現在活躍する漆を素材として用いている作家の作品から、これからの漆表現の可能性を探ります。
(美術担当 小林めぐみ)



湿原蒔絵箱 関谷浩二(撮影/大堀一彦)



undercurrents-2010 I 松島さくら子(撮影/浅野浩良)



calm 保井智貴

展示の構成
漆文化の歴史
漆のチカラ―縄文の赤と黒―
会津の漆―折りの器・生活の器―
会津の漆―技と美の研鑽―
漆表現の現在

関連イベント

■講演会「漆の文化史―九〇〇〇年の時を超えて」
講師：四柳嘉章さん(石川県輪島漆芸美術館館長)
日時：平成二十二年一月三十一日(日) 一三時三〇分
会場：福島県立博物館講堂

■アーティストトーク
講師：藤田敏彰さん(漆造形家)、松島さくら子さん
(漆造形家)、中島靖高さん(現代美術家、保井
智貴さん(彫刻家) (予定)
日時：平成二十二年一月九日(土) 一三時三〇分
会場：企画展示室

■ワークショップ「漆絵でmy箸を作ろう」
講師：めしもり山工房のみなさん
日時：一月三日(土) 一三時三〇分
一月四日(日) 一〇時三〇分
定員：一五名(申込制・先着順・一ヶ月前から募集を
開始します)
参加費：六〇〇円(一膳につき・予定)

観覧料：一般・大学生 五〇〇円(四〇〇)円
高校生 三〇〇円(二四〇)円
小中学生 二〇〇円(一六〇)円

() 内は二〇名以上の団体料金

夏の企画展

「森に生き山に遊ぶ！」

「ふくしまの森林文化」 関連事業

樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」

日時：七月一日(日) 一〇：〇〇～二二：〇〇

講師：福島県植物研究会員・会津生物同好会員

蓮沼憲二さん

鶴ヶ城公園をフィールドに、園内に生育する樹木を中心とした植物観察会を催しました。園内の草木はみだりに採集できません。そのため蓮沼さんは事前に、案内する樹木の枝葉を用意されていました。解説する樹木の側で肩掛けバッグからその木の枝葉を取り出して参加者の目の前に示します。お陰で手の届かない枝葉を間近に観察することができました。

園内の樹木は植樹されたものが殆どですが、鳥や風によって種子が散布され出芽したものもあります。イヌザクラやコナラなど山に生育する樹も案内していただきました。樹種の細かい見分け方のほか、林床植物や水生植物、着生植物の面白い形態・生態の



ジュの葉の特徴を説明する講師の蓮沼さん

解説もあつて、樹木や植物への関心を深め、公園内の自然の豊かさに気付く機会となりました。午後まで延長して観察したい、季節ご

とに観察会を開いてもらいたい等の声が寄せられました。
(自然担当 小澤義春)

対談「山の技術と資源の活用—吉野と熊野のフィールドから—」

日時：七月一七日(土) 一三：三〇～一五：〇〇

講師：東北学院大学専任講師 加藤幸治さん

奈良県教育委員会 森本仙介さん

加藤さんは和歌山県立紀伊風土記の丘で学芸員として意欲的な調査に取り組んでこられた。森本さんは奈良県立民俗博物館で、吉野の山村生産用具を指定有形民俗文化財にするためにかけまわり、指定記念の大きな展覧会を手掛けられた。こうした過程でそれぞれ熊野、吉野で山林の民俗調査をしてこられた。そのお二人から、私たちとは異なる視点での山や森についての話を聞くことができた。とくに印象に深いのは、吉野式林業という、きちつとした美林を作り出す方法は、ほとんど稲の栽培と同じような手のかけ方だという話や、人工林も極めるとそこには豊かな動物の世界があるということ。

一方熊野式林業とよばれるやや粗放な林業の背景には藩政時代の施策があり、備長炭を焼く山という考えがあることなどがあげられていた。ともかくも、きちつとした深いフィール



フィールド経験から対談する加藤さん(左)と森本さん(右)

ド経験に裏打ちされた話はつきず、予定時間をはるかにオーバーしてもまだ終わらない状態だった。新鮮な風が十分に吹いてくるお二人の対談だった。
(民俗担当 榎 陽介)

講演会「森は動いている—樹木の長い一生を科学する—」

日時：七月一八日(日) 一三：三〇～一五：〇〇

講師：東北学院大学生命科学研究所教授

中静透さん

森林生態学・生物多様性科学を専門とする中静透さんから、樹木の世代交代が攪乱かくらんという悪条件と見える環境を利用して行われていることなどの講話を聴くことができました。台風による斜面崩壊や河川氾濫など、数十年または数百年に一度の頻度で起こる攪乱に世代交代を依存していることは、樹木の一生が長いことで実現されるといふ興味深い内容でした。

森林と住民の関わりや木材利用の後退により、森林の荒れや病害虫被害の多発を招いている事例の紹介もありました。講演後はこれら人と森との関わりについての質疑がありました。
(自然担当 小澤義春)



森林の動態について講演する中静さん

※「博物館だより97号」5ページにあるヤマザクラの写真はカスミザクラの誤りでした。お詫びして訂正します。

Q…テレビや新聞で国会のニュースをよく目にしますが、日本に国会が誕生したのはいつ頃ですか。

A…それは、今から一二〇年前の一八九〇年一月二十九日のことです。きっかけは、一八七四年に板垣退助らが政府に提出した「民撰議院設立の建白書」でした。民撰議院とは国会のことです。この意見書は、新聞に掲載され大きな反響を呼び自由民権運動の口火となりました。政府は全国に拡大する民権運動をきびしく弾圧したものの、徐々に抑え切れなくなり、一〇年後の国会開設を約束したのです。国会開設は民権運動が勝ち取った成果と言えるでしょう。

国会開設とふくしま

Q…一二〇年前の国会と現在の国会は、何が一番違いますか。

A…当時の国会は、大日本帝国憲法下の議会で「帝国議会」と呼ばれました。一九四七年五月三日の日本国憲法施行により帝国議会は「国会」（国の唯一の立法機関）となったのです。また、現在は「衆議院」と「参議院」の二院制ですが、当時は「衆議院」と選挙のない皇族や華族、勅任（天皇が任命）の議員からなる「貴族院」の二院制でした。

Q…一二〇年前の初代国会議員の中には福島県人もいたのですか。

A…一八九〇年七月一日に第一回衆議院議員総選挙

が実施され、福島県からは七名が当選（佐藤忠望・安部井磐根・河野広中・鈴木万次郎・山口千代作・三浦信六・白井遠平）。貴族院議員一名も多額納税者から選出され（角田林兵衛）、計八名の国会議員が誕生しました。当時は「直接国税一五円以上を納める二五歳以上の男子」という制限選挙のため、有権者数はわずか一万四千人弱（総人口約九六万人の一・四五％）でした。

Q…時おり「代議士」という言葉を耳にしますが、国会議員との違いは何ですか。

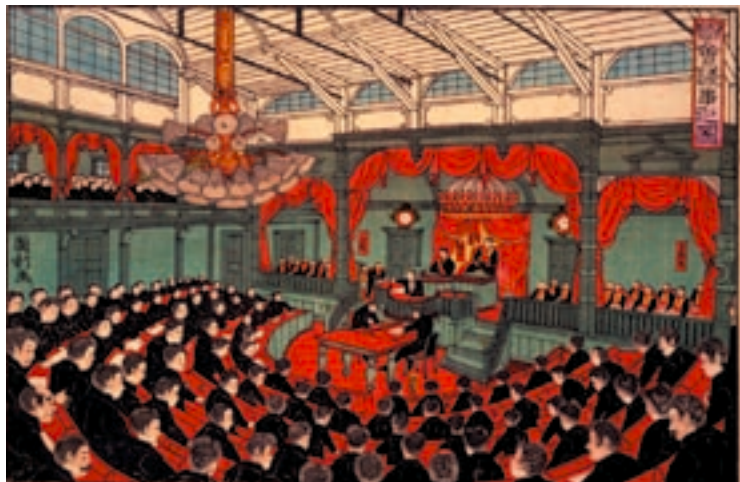
A…「代議士」とは、国民を代表して国政を議論する人、という意味の衆議院議員の通称です。昔の

Q&A 回答者 歴史担当 星 幸

人々は国民の代表である衆議院議員のことを、貴族院議員と区別して、敬意と親しみを込めて代議士と呼んだようです。今日でも一般に参議院議員は代議士とは呼びません。

Q…現在の国会議事堂はいつ頃建てられたのですか。

A…おなじみの永田町にある議事堂は、一九三六年一月七日に完成しました。すでに七〇年以上も国政の舞台として日本の政治を見守り続けています。いずれにしても、日本の針路を決める大切な国会。国会開設一二〇周年の節目を機に、国政への関心や問題意識を深めたいものです。



「国会議事之図」1890（明治23）年
帝国議会開設当時の様子
写真提供：憲政記念館

常設展ポイント展示

「国会開設とふくしま

— 一二〇年前の国会議員 —

会期 平成三二年一月一九日（火）

二月一九日（日）

場所 福島県立博物館常設展示室 近現代 E2

「自由民権」コーナー 常設展観覧料

『少年工芸文庫 第一四編 漆器の巻』

石井研堂の理科読み物

佐藤洋一 歴史担当

明治期の子どもたちに人気であった『少年工芸文庫』シリーズ全二四編には、『第一四編 漆器の巻』が含まれています。いろいろ調べてみましたが、目下のところ明治期の子ども向け知識読み物の単行本の中で、漆器を取り上げた唯一の本であると考えられます。

この本の著者は、福島県郡山出身の明治文化史研究者石井研堂（研堂は号、本名は民司。一八六五年～一九四三年）です。

大著『明治事物起原』（一九四四年増補改訂版）は特に有名ですが、その他、研堂の多彩な業績の一つの柱が、理科読み物です。『理科十二ヶ月』全二冊（博文館、一九〇二年）、『少年工芸文庫』全二四冊（博文館、一九〇二年から一九〇四年）、『少年実験工芸百種』（博文館、一九一三年）、堀七藏と共著『常識叢書 第一編 電燈』（敬文館、一九一五年）、『常識叢書 第二編 電気の利用』（敬文館、一九一五年）などがあります。

『少年工芸文庫 第一四編 漆器の巻』の目的

この『少年工芸文庫』シリーズ全二四編のテーマは、以下のようになっています。

鉄道、水道、瓦斯、写真、電話、硝子、

紡績、活版、汽船、製紙、銅山、電燈、陶器、漆器、時計、マッチ、織物、染色、煙草、砂糖、醸造、石油、機械、建築、

編は部門と言い換えることができます。これらの二四部門の工業製品や美術工芸品、そして、各部門の産業システムの知識が、少年にとって必要な知識であると考えられているのです。

研堂の得意な実地研究主義・専門家へ取材は、『漆器の巻』でも遺憾なく発揮されています。『漆器の巻』の著作目的の一端を本文中から摘記してみましょう。

殊に、工人の苦心研究によりて、種々の塗方を発明し、実用の外に、裝飾上の美を増して、人に娯樂を与えています。

漆工は本邦固有の技術ともいふべく、古来其経験が進んで居ります。之に反して、欧米諸国人の、漆器を知りましたのは、至つて近年のこととて、漆、ニスなどを塗ることを、ジャボンといひ日本と漆を、同一義に使つてゐる位なのです。されば、僕は、若し我国の少年にして、漆器の、如何にして塗り上げらるゝものかをも知らずして止まらぬ恥づべきことなるべしと、工芸文庫中に、この冊を加へたわけなのです。殊に、器用の少年ならんには、自ら其技術を試みて、清案を得らるゝですから、成るべくは、読むばかりに止まらず、漆のいたづらもやつて貰ひたいのです。

これを要するに、世界に名だたる漆器の国に生まれただと忠告しているのです。さらに本を読むばかりでなく、実際に漆を塗って体験してみなさいとも言つ

ています。

『少年工芸文庫 第一四編 漆器の巻』の内容

七木君や陶山君ら登場人物の少年たちが実験したり議論したりしながら、読み物は進展します。その内容は、ウルシノキの種類、漆の採取方法と道具、漆の化学、精製工程の化学、木地の製作工程、漆器の製作工程、漆器の技法、余談（「米国の税関官吏」「独逸の模造漆器」）などが的確にわかりやすく記述されています。書籍の形態は、縦二二・五cm×横一五・〇cm、本文一〇六頁、写真四頁です。本文中の挿絵は、計二二図です。写真は、福島県立博物館所蔵本の表紙です。

なお、福島県出身の石井研堂は、この本の中で会津の漆器をたびたび紹介しています。「漆樹を）会津に行った時見ました」「保科正之が漆の栽培を奨励しました」「漆の産地）岩代の会津」「漆工専門の学校は、（中略）岩代若松の工業学校等に、漆工料あるのみなり」などが見えています。



会 期：平成22年9月11日(土)～11月23日(火・祝)
会 場：総合展示室古代
観覧料：一般・大学生／260円 小中高生／無料

県内の遺跡から初めて発見された「和同開珎」を展示します。須賀川市うまや遺跡の「和同開珎」は、古代の住居跡から見つかった須恵器に納められていました。

また、「和同開珎」から始まり、平安時代に鑄造された「乾元大寶」までの「皇朝十二銭」と総称される銭貨も展示します。



58号住居跡から見つかった須恵器



須恵器に納められていた和同開珎

冬の特集展（まほろん移動展） 予告

ふくしまの土偶

土偶とは、粘土で作られた人形です。縄文時代に作られました。おっぱいとふくらんだお腹が強調されています。妊娠した女性を表現しているのです。いのちを産み出す神さまの像なのでしょう。

縄文人の姿を映していると考えられることから、数千年前の人々の顔の特徴や身なり、髪型などもうかがい知ることが出来ます。

昨年、大英博物館において開催された「The Power of DOGU」に出品された福島市上岡遺跡の体育座りをする土偶や郡山市荒小路遺跡のハート形土偶を始め、県内の代表的土偶が勢ぞろいします。また県外へ流出した東北大学考古学研究室が所蔵する会津坂下町竈原遺跡の土偶も里帰りします。

この展示は、まほろん（福島県文化財センター白河館）との交流事業で、まほろんが開催する企画展の移動開催です。
（考古担当 森 幸彦）



三春町柴原 A 遺跡出土土偶
まほろん（福島県文化財センター白河館）所蔵

■会期 平成二十二年二月七日(火)～平成二十三年一月三〇日(日)

企画展

※は要申込

企画展
「漆のチカラ 漆文化の歴史と漆表現の現在」
10月9日(土)～11月28日(日)

◎企画展関連行事

アーティストトーク「漆で表現する」
日時 10月9日(土) 13時30分

会場 福島県立博物館企画展示室

講師 漆造形家 藤田敏彰さん、漆造形家 松島さくら子さん、漆造形家 中島靖高さん、彫刻家 保井智貴さん 予定

講演会「漆の文化史―9000年の時を超えて」
日時 10月31日(日) 13時30分

会場 福島県立博物館講堂

講師 石川県輪島漆芸美術館長 四柳嘉章さん

福島県文化施設連携事業

「The Voice of (漆)リーディング」
日時 11月2日(火) 16時30分

会場 アルテマイスター保志(会津若松市本町9-23)

出演 詩人 吉増剛造さん

福島県文化施設連携事業

新作 Cine 初公開 「The Voice of (漆)―会津にて」
日時 11月3日(水) 祝 13時30分

会場 アルテマイスター保志(会津若松市本町9-23)

出演 詩人 吉増剛造さん

会津・漆の芸術祭

※は要申込

「会津・漆の芸術祭」
会期 10月2日(土)～11月23日(火・祝)

◎会津・漆の芸術祭関連行事

オープニングセレモニー
日時 10月2日(土) 13時30分～14時30分

会場 会津若松市七日町市民広場

※「赤坂憲雄ディレクターとめぐる会津・漆の芸術祭ツアー」
日時 10月2日(土) 14時30分～15時30分

講師 会津・漆の芸術祭ディレクター 福島県立博物館長 赤坂憲雄

会場 会津若松市内の展示会場

定員 20名(申込制、先着順)

*会津・漆の芸術祭「関連行事の詳細につきましては、ホームページ(<http://www.general-museum-ks.ed.jp/urushinogisai/event/event.html>)を参照してください。以下、一部 福島県立博物館を会場とする行事を中心に紹介します。

公演「漆の楽器コンサート」
日時 10月16日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館エントランスホール

出演 尺八奏者 ブルース・ヒューバナーさん、箏奏者 カージェス・パターソンさん

劇団きらく座公演「漆屋傳兵衛」
日時 11月14日(日) 13時30分～15時

出演 劇団きらく座

会場 福島県立博物館講堂

シンポジウム「福島・会津・いわきアートトライブ」
日時 11月20日(土) 15時～17時30分

会場 大和川酒造北方風土館

パネリスト いわきアートトリエンナーレディレクター 吉田重信

渡邊晃一

会場 会津・漆の芸術祭ディレクター・福島県立博物館長 赤坂憲雄

シンポジウム「会津・漆・アート」
日時 11月23日(火・祝) 14時～16時

会場 福島県立博物館講堂

パネリスト 越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター 北川フラムさん

秋田公立美術工芸短期大学学長 樋田豊次郎さん

明治学院大学教授 山下裕一

コーディネーター 会津漆の芸術祭ディレクター・福島県立博物館長 赤坂憲雄

特集展(まほろん移動展)
「かくしまの土偶」
会期 12月7日(火)～1月30日(日)

テーマ展
「相馬地域の干拓」
会期 9月7日(火)～平成23年3月31日(木)

「かくしまの画人たち」
会期 12月4日(土)～平成23年1月9日(日)

ポイント展
「相馬岡田文書」
会期 9月2日(木)～10月11日(月・祝)まで

「あの世に旅立つとき」
会期 10月1日(金)～11月30日(火)

「かくしま教育のあゆみ」
会期 10月19日(火)～11月30日(火)

「国会開設とかくしま」
会期 10月19日(火)～12月19日(日)

「松原湖の埋没林」
会期 9月7日(火)～10月31日(日)

「死者を見守る顔」
会期 9月11日(土)～平成23年3月27日(日)

「和同開珎」
会期 9月11日(土)～11月23日(火・祝)

「あの世に旅立つとき」
会期 10月1日(金)～11月30日(火)

「おばあちゃんの記憶―こたつ掛け―」
会期 12月1日(木)～平成23年1月30日(日)

「塩沢上原遺跡の石器」
会期 12月4日(土)～平成23年3月27日(日)

ミュージアムイベント
「友の会文化祭」
日時 10月17日(日) 10時～16時

会場 福島県立博物館エントランスホール・中庭

クリスマスジャズコンサート「古代の千年後」
日時 12月18日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館エントランスホール

木曜の広場
「遠野物語」を読む7
講師 館長 赤坂憲雄

日時 10月7日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

「遠野物語」を読む8
日時 11月4日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む9
日時 12月2日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座
◎歴史講座
人物シリーズ2「柴四朗・東海散士を読む」
講師 学芸員 佐藤洋一

日時 10月2日(土) 13時30分～15時 講堂

人物シリーズ3「国会開設と代議士・河野広中の誕生」
日時 11月6日(土) 13時30分～15時 講堂

講師 学芸員 星 幸

◎自然史講座
「鶴ヶ城の野鳥」
日時 11月14日(日) 13時30分～15時30分 視聴覚室・鶴ヶ城公園

講師 鳥類研究者 古川裕司

◎考古学講座
「勾玉・ガラス玉を作ろう」
日時 12月11日(土) 13時30分～16時 実習室

学芸員 横須賀倫達ほか

やさしい展示解説
*展示解説員による常設展総合展示の案内です。
*毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

常設展無料開放日
11月3日(水)文化の日 全員常設展無料

企画展無料開放日
11月2日(火)～11月7日(日) 小学生・中学生・高校生の企画展無料

10月～12月の休館日
10月 4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)

11月 1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・24日(水)

29日(月)

12月 6日(月)・13日(月)・20日(月)・24日(金)・27日(月)

～31日(金)